

2019年6月14日更新

Exercises in Computer-Aided Problem Solving

3. 行列と線形代数I

Matrices and linear algebra I

東北大学 大学院工学研究科

嶋田 慶太 shimada@tohoku.ac.jp



TOHOKU
UNIVERSITY



- 行列の成分, 行ベクトル, 列ベクトル
- 単位行列, 零行列, 全要素1の行列, 乱数行列
- 行列の演算 (数学的定義 ~ Octave内の独自演算)
- 計算例
- ノルム
- 演習問題



Octaveを用いた 行列操作・演算の基礎



Matrices (行列: 単数形はmatrix)

▶データは基本的に行列・ベクトルで表現される.

個別入力

```
>> A=[1 2 3; 2 3 4]
```

A =

1 2 3

2 3 4

カンマ「,」
次の要素

セミicolon「;」
次の行へ.

行ごとの要素数が異なる
▶エラーとなる.

```
>> C=[1,2;2,3,4]
```

```
error: vertical dimensions mismatch (1x2 vs 1x3)
```



Matrices (行列: 単数形はmatrix)

▶データは基本的に行列・ベクトルで表現される。

レンジによる入力 (1)

```
>> B = [1 : 2 : 9]
```

```
B =  
    1    3    5    7    9
```

コロンで区切る. 引数が3つの場合,
順に 初期値, 増分, 終端

レンジによる入力 (2)

```
>> C = [1 : 5]
```

```
C =  
    1    2    3    4    5
```

引数が2つの場合, 増分を1として扱う



特殊な行列

単位行列

`eye (m, n)` クロネッカーのデルタ, δ_{ij}

単位行列 I (Identity matrix) から.

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & \dots & 0 \\ 0 & 1 & \dots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \dots & 1 \end{bmatrix}$$

全要素1の行列

`ones (m, n)`

$$\begin{bmatrix} 1 & \dots & 1 \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & \dots & 1 \end{bmatrix}$$

零行列

`zeros (m, n)`

$$\begin{bmatrix} 0 & \dots & 0 \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & \dots & 0 \end{bmatrix}$$

乱数行列

`rand (m, n)` および `randn (m, n)`

各要素が
[0,1]の一様乱数

各要素が
平均0, 分散1の
正規分布となる乱数

いずれも引数を1つにする(すなわちnを省略する)と正方行列になる.



成分, 行ベクトル, 列ベクトルの操作(1)

A 1列 2列 3列

1行 1 2 3
2行 2 3 4

すべて
このAに対して
はじめて行う操作
と仮定して.

成分の選択

行 列
▼ ▼

```
>> A(2, 3)
ans = 4
>> A(1, 2)
ans = 2
```

行ベクトルの選択

コロンで全成分選択

▼
>> A(2, :)
ans =
 2 3 4

列ベクトルの選択

```
>> A(:, 1)
ans =
    1
    2
```

部分行列の選択

```
>> A(1:2, 1:2)
ans =
    1    2
    2    3
```

列ベクトルへ変換

```
>> A(:)
ans =
    1
    2
    2
    3
    3
    4
```



成分, 行ベクトル, 列ベクトルの操作(2)

A 1列 2列 3列

1行 1 2 3
2行 2 3 4

すべて
このAに対して
はじめて行う操作
と仮定して.

成分の代入

行 列

>> A(2, 3) = 5

A =

1 2 3
2 3 5

行ベクトルの代入

コロンで全成分選択

>> A(2, :) = [4, 5, 6]

A =

1 2 3
4 5 6

ベクトルの削除

>> A(:, 2) = []

A =

1 3
2 4

▶要素のみの削除はできない

列ベクトルの代入

コロンで全成分選択

>> A(:, 1) = [3; 4]

A =

3 2 3
4 3 4



成分, 行ベクトル, 列ベクトルの操作(3)

A

	1列	2列	3列
1行	1	2	3
2行	2	3	4

すべて
このAに対して
はじめて行う操作
と仮定して.

範囲外の成分の追加

```
>> A(3, 4) = 1
```

A =

1	2	3	0
2	3	4	0
0	0	0	1

▶他をゼロ埋めして追加する

列ベクトルの追加

コロンで全成分選択

```
>> A(:, 5) = [3; 4]
```

A =

1	2	3	0	3
2	3	4	0	4

行ベクトルの追加

コロンで全成分選択

```
>> A(3, :) = [4, 5, 6]
```

A =

1	2	3
2	3	4
4	5	6

▶連続していない場合は
他をゼロ埋めして追加する



行列用の関数

A 1列 2列 3列

1行 1 2 3
2行 2 3 4

size: 行列のサイズを見る

```
>> size(A)
ans =
     2     3 ◀ 行数・列数
```

応用

Aと同サイズで1埋めの行列

```
>> ones(size(A))
ans =
     1     2     3
     1     1     1
     1     1     1
```

sum: 行列の和を計算

```
>> sum(A) ◀ デフォルト
ans =
     3     5     7
は列方向の和

>> sum(A, 2)
ans =
     6
     9
▲ 2をつけると行方向の和
(1が列方向)
```

応用

行列成分の総和

```
>> sum(sum(A))
ans =
    15

>> sum(A(:))
ans =
    15
```

似た動作をする関数に
mean(平均)がある



算術演算子(行列演算の場合1)

$$A_{m \times n} = [a_{ij}], B_{m \times n} = [b_{ij}]$$

AとBは同じ行数・列数

+

足し算

—

引き算

$$A + B = [a_{ij} + b_{ij}]$$

$$A + n = [a_{ij} + n]$$

スカラー(1 × 1行列)

要素ごとに和(差)を取る.

全要素にスカラー値を加える

$$A_{l \times m} = [a_{ij}], B_{m \times n} = [b_{ij}]$$

Aの列数と
Bの行数が同じ

*

掛け算

$$A * B = [\sum a_{ik} * b_{kj}]$$

$$A * n = [n * a_{ij}]$$

スカラー(1 × 1行列)

$$A_{n \times n} = [a_{ij}] \quad \text{正方行列}$$

^

べき乗

$$A^2 = [\sum a_{ik} * a_{kj}]$$



算術演算子(行列演算の場合2)

$$A_{m \times n} = [a_{ij}], B_{m \times n} = [b_{ij}]$$

AとBは同じ行数・列数
もしくは列ベクトルと行ベクトル

.*

要素ごと
掛け算

./

要素ごと
割り算

.^

要素ごと
べき乗

$$A .* B = [a_{ij} * b_{ij}]$$

$$A ./ B = [a_{ij} / b_{ij}]$$

$$A.^2 = [a_{ij}^2]$$

$$A.^B = [a_{ij}^b]$$

要素ごとに
積・商・冪をとる.

ピリオド記号により, 要素ごと(elementwise)計算を行う.

*和・差でもピリオド付きにすることができるが, 結果は同じ.

!

複素共役
転置行列

!.

転置行列

!!

複素共役
行列

Aが実行列ならば,
 $A.' = A'$

この授業(というか実数を扱う限り)では
ほぼ'で事足りる.



< <= > >= == ~=

小なり, 以下, 大なり, 以上, 等しい, 等しくない

A

1	2	3
2	3	4

B

2	1	4
6	2	3

```
>> A > 2
```

```
ans =
```

```
0 0 1
```

```
0 1 1
```

```
>> A >= 2
```

```
ans =
```

```
0 1 1
```

```
1 1 1
```

```
>> A == 2
```

```
ans =
```

```
0 1 0
```

```
1 0 0
```

```
>> A > B
```

```
ans =
```

```
0 1 0
```

```
0 1 1
```

行列 同士

▶ 要素ごとに比較



Octaveの特殊な計算の例

A 1列 2列

1行 1 3

2行 2 4

B 1列 2列

1行 5 7

2行 6 8

A.*B

$$\begin{bmatrix} 1 * 5 & 3 * 7 \\ 2 * 6 & 4 * 8 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 & 21 \\ 12 & 32 \end{bmatrix}$$

A+1

$$\begin{bmatrix} 1 + 1 & 3 + 1 \\ 2 + 1 & 4 + 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 4 \\ 3 & 5 \end{bmatrix}$$

C 1列 2列

1行 1 2

D 1列

1行 5

2行 7

C.*D

$$\begin{bmatrix} 1 * 5 & 2 * 5 \\ 1 * 7 & 2 * 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 & 10 \\ 7 & 14 \end{bmatrix}$$

C+D

$$\begin{bmatrix} 1 + 5 & 2 + 5 \\ 1 + 7 & 2 + 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 6 & 7 \\ 8 & 9 \end{bmatrix}$$



Octaveの特殊な計算の例

A	1列	2列
	1行	1 3
	2行	2 4

B	1列	2列
	1行	5 7
	2行	6 8

$$A+C \quad \begin{bmatrix} 1 + 1 & 3 + 2 \\ 2 + 1 & 4 + 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 5 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}$$

$$A+D \quad \begin{bmatrix} 1 + 5 & 3 + 5 \\ 2 + 7 & 4 + 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 6 & 8 \\ 9 & 11 \end{bmatrix}$$

C	1列	2列
	1行	1 2

D	1列	
	1行	5
	2行	7

$$A \cdot * C \quad \begin{bmatrix} 1 * 1 & 3 * 2 \\ 2 * 1 & 4 * 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 6 \\ 2 & 8 \end{bmatrix}$$

$$A \cdot ^ C \quad \begin{bmatrix} 1 ^ 1 & 3 ^ 2 \\ 2 ^ 1 & 4 ^ 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 9 \\ 2 & 16 \end{bmatrix}$$

以上のほかにもOctaveには「裏技」のような演算のルールがあるので、
(正確にはBroadcastingという)
いろいろ試しておく、あとでスクリプトが簡単に書けるようになる。



逆行列関連(行列の除算)

$\text{inv}(A)$ ◀ **Inv**ertible matrix

Aの逆行列(A^{-1})

$$A/B = A * \text{inv}(B)$$

右除算

ただし, 内部では,
逆行列を作ることなく計算している.

$$A \setminus B = \text{inv}(A) * B$$

左除算

日本語符号では \div だが, 欧米では \setminus なのでわかりやすい
(どちらが分母側として潜り込んでいるかわかる, という意味)



特殊関数の引数を行列とした場合

基本的に要素ごと演算を行う

\sin, \cos, \tan
 $\sin^{-1}, \cos^{-1}, \tan^{-1}$

三角関数, 逆三角関数

$\sin(A) = [\sin(a_{ij})]$
 $\cos(A) = [\cos(a_{ij})]$
 $\tan(A) = [\tan(a_{ij})]$

$\text{asin}(A) = [\text{asin}(a_{ij})]$
 $\text{acos}(A) = [\text{acos}(a_{ij})]$
 $\text{atan}(A) = [\text{atan}(a_{ij})]$

\exp, \log, \log_{10}

指数関数, 対数関数

$\exp(A) = [\exp(a_{ij})]$
 $\log(A) = [\log(a_{ij})]$
 $\log_{10}(A) = [\log_{10}(a_{ij})]$



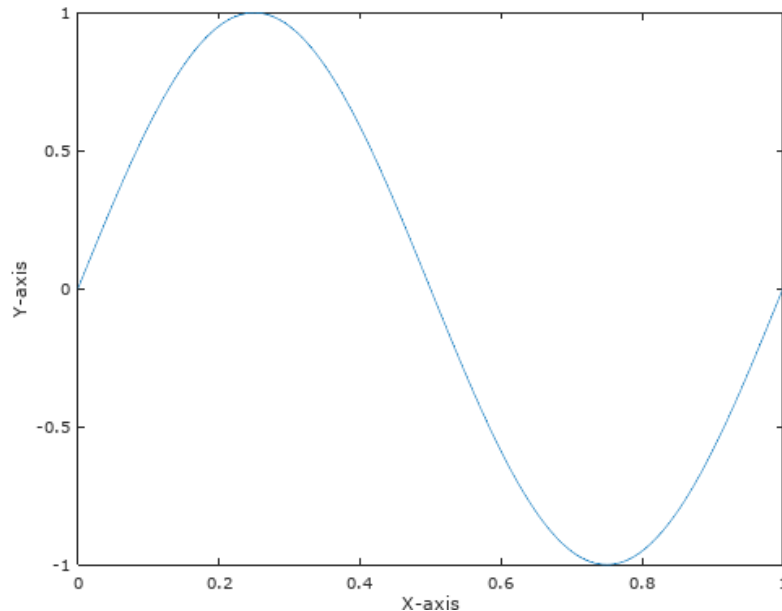
例1: 三角関数のグラフを描く

```
x = [0:1/1000:1];  
y = sin(2*pi*x);  
plot(x,y)  
xlabel("X-axis");  
ylabel("Y-axis");
```

◀ 横軸区切り(とりあえず0から1まで区間)

▲ 行ベクトルで表現されている

ワークスペース				
フィルタ <input type="checkbox"/>				
名前	クラス	次元	値	属性
x	double	1x1001	[0, 0.0010000, 0.0020000, 0.0030000, ...	
y	double	1x1001	[0, 0.0062831, 0.012566, 0.018848, 0.0...	



plot: プロットをする関数 ▶ グラフを書く関数

xlabel: x軸のラベル

ylabel: y軸のラベル



例2: Fourier級数のGibbs現象

$$x(t) = \frac{4}{\pi} \sum_{k=1}^{\infty} \sin \frac{(2\pi(2k-1)ft)}{2k-1}$$

矩形波のフーリエ級数展開

```
t = [0:1/1000:1];    ◀ 時間区切り
f = 1;               ◀ 周波数(好きに決められる)
k = [1:100]';        ◀ 係数関係(転置に注意)
```

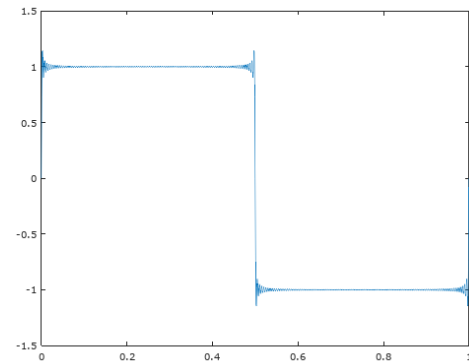
```
x = 4/pi * sin(2*pi*(2*k-1)*f.*t) ./ (2*k-1);
plot(t, sum(x))
```

t = 0 0.001 0.002 0.003 ... 1

k = 0
1
2
100

x (100 × 1000行列)

sum ▶ (1 × 1000行列)



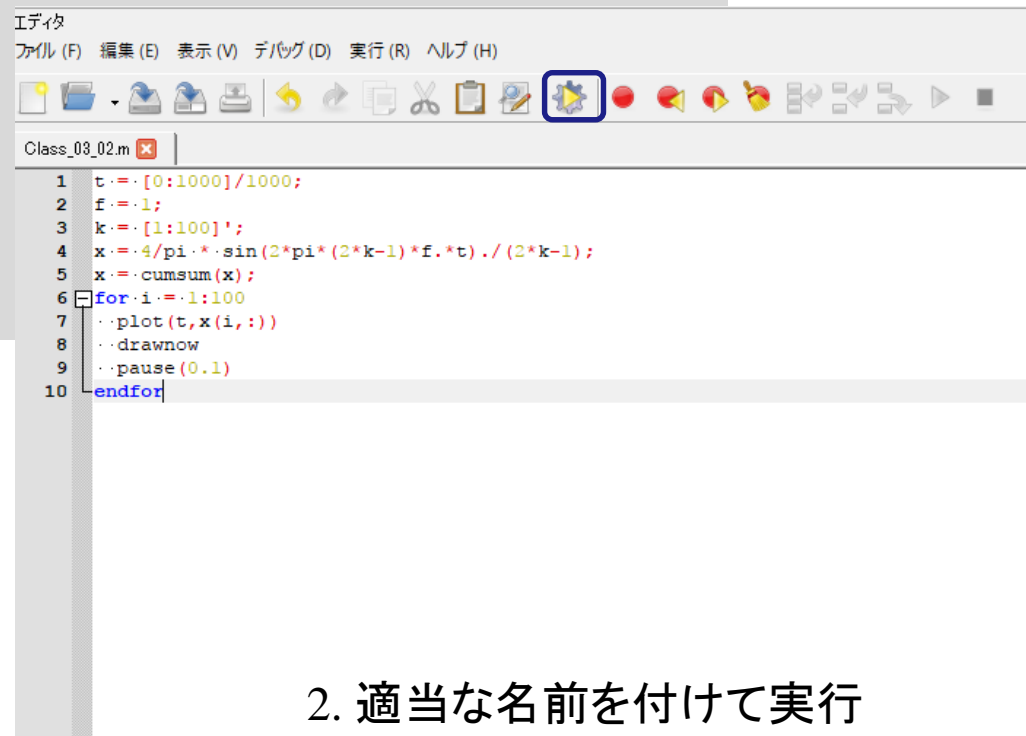
この100,000個の計算も0.01秒で終わる
(秒数はスペックによるけど)



例3: グラフのアニメーション化

```
t = [0:1000]/1000;  
f = 1;  
k = [1:100]';  
x = 4/pi * sin(2*pi*(2*k-1)*f.*t) ./ (2*k-1);  
x = cumsum(x);  
for i = 1:100  
    plot(t,x(i,:))  
    ttl = sprintf("k = %d",i);  
    title(ttl)  
    drawnow  
    pause(0.1)  
endfor
```

1. エディタにコピーして



2. 適当な名前を付けて実行

```
t = [0:1000]/1000;
f = 1;
k = [1:100]';
x = 4/pi * sin(2*pi*(2*k-1)*f.*t) ./ (2*k-1);
x = cumsum(x);
for i = 1:100
    plot(t,x(i,:))
    ttl = sprintf("k = %d", i);
    title(ttl)
    drawnow
    pause(0.1)
endfor
```

◀ コロン二つを使った前のページの区切りと同じ.

◀ cumsum: 出力行列の(i, j): 入力行列の (1, j) から (i, j) までの総和

%dに代入される

C言語のsprintf と似ている.

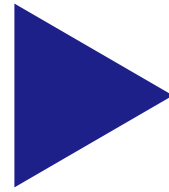
◀ ただし指定子は%d(整数)と%f(浮動小数点)

◀ グラフにタイトルを付ける関数



アドバイス: for文は(なるべく)使わない

for 文: ループして順次計算
行列演算: 並列計算が可能



(メモリが足りていれば)
行列演算にしたほうが速い

さらに, インデックスを用いた演算を駆使すれば if文も削れる

```
i = [1:100];  
x = i(mod(i, 2) == 1);
```

条件式が真となる部分だけを抜き出し x に格納できる.

たとえば前回の課題だと, 計算時間は1000回平均で下記の違いが生まれた.

for文: 5.2 ms ($\sigma = 0.20$ ms)

行列: 0.081 ms ($\sigma = 0.0139$ ms)



適当に乱数行列を作って「遊んで」慣れる

上から順に実行してみて
表示される数字の規則を見てみよう.
(最初の2行はただの乱数なので意味ないけど)

```
x=rand(3)
y=rand(3)
x>0.3
x(x>0.3)
y(x>0.3)
x>y
x(:)
```

```
x=rand(3,1)
y=rand(3,1)
x+y'
```

```
l=100;
m=100;
n=100;

X=rand(l,m);
Y=rand(m,n);
Z=zeros(l,n);
##C language-like####
tic;
for i=1:l
    for j=1:n
        for k=1:m
            Z(i,j)+=X(i,k)*Y(k,j);
        endfor
    endfor
endfor
toc
##Matlab-like####
tic;
Z2=X*Y;
toc
```



線形代数

実用上のベクトル

ベクトル ～ データのかたまり

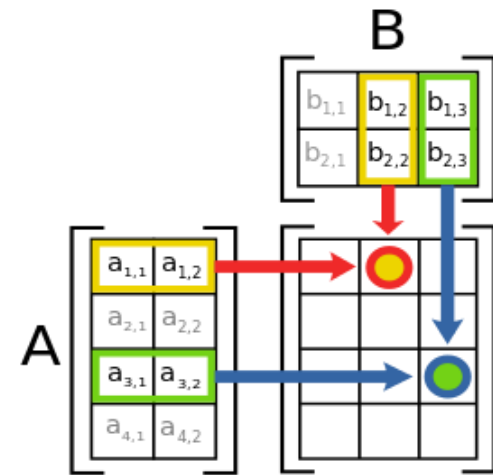
図形的なベクトルもちろん正しいが、
本講義ではデータのかたまりとしてとらえたほうが適當。

内積 ～ 類似度

内積は二つのベクトルの類似度を表す指標と考えるとよい
(本当はそれを自身の大きさに割って規格化すべきだが)

行列 ～ 線形変換の係数を書き出したもの

行と列の奇妙に見える演算ルールも、「変換」という目的があつてのもの
(しりとりルールによって行列の型が変化していくことを考えよう)



[https://en.wikipedia.org/wiki/Matrix_\(mathematics\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Matrix_(mathematics))

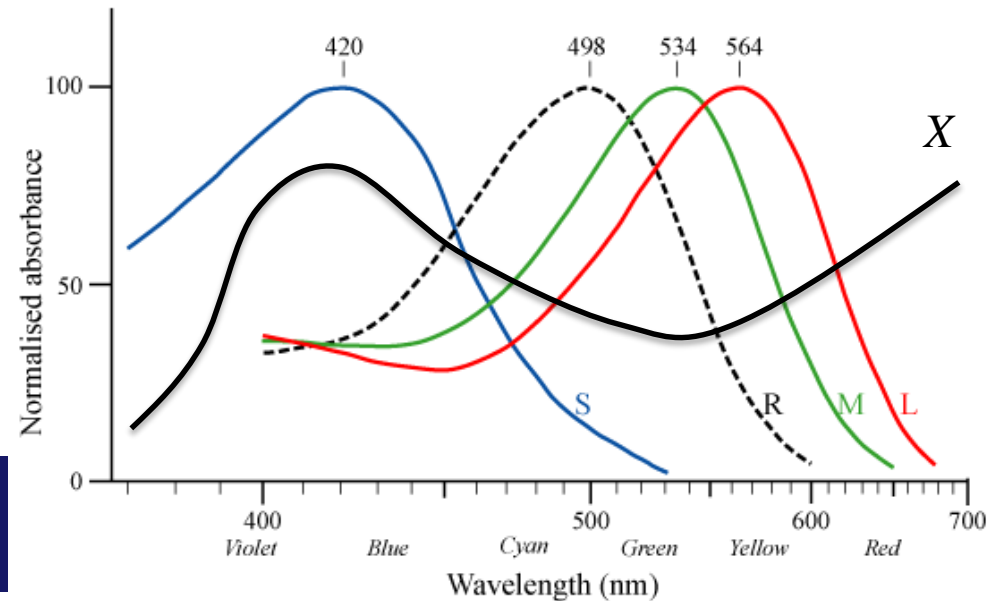


実生活ではどんな場面に出てくるか？

例1 色覚

自然界の光の波長は
(厳密には量子化されるが)
無限に分けられる.

ある強度の光 X が
ヒトにとって何色に見えるか？



色はS, M, Lの3本の錐体がどのくらい刺激されるかによって識別される.

▶ 各錐体の反応性 S, M, L と光 X の内積 ▶ 刺激の強度

赤系R $\langle L, X \rangle$ どのくらい赤い？

緑系G $\langle M, X \rangle$ どのくらい緑っぽい？

青系B $\langle S, X \rangle$ どのくらい青い？

「無限次元」の X も
ヒトの色覚としては
R G B の「3次元」情報になる

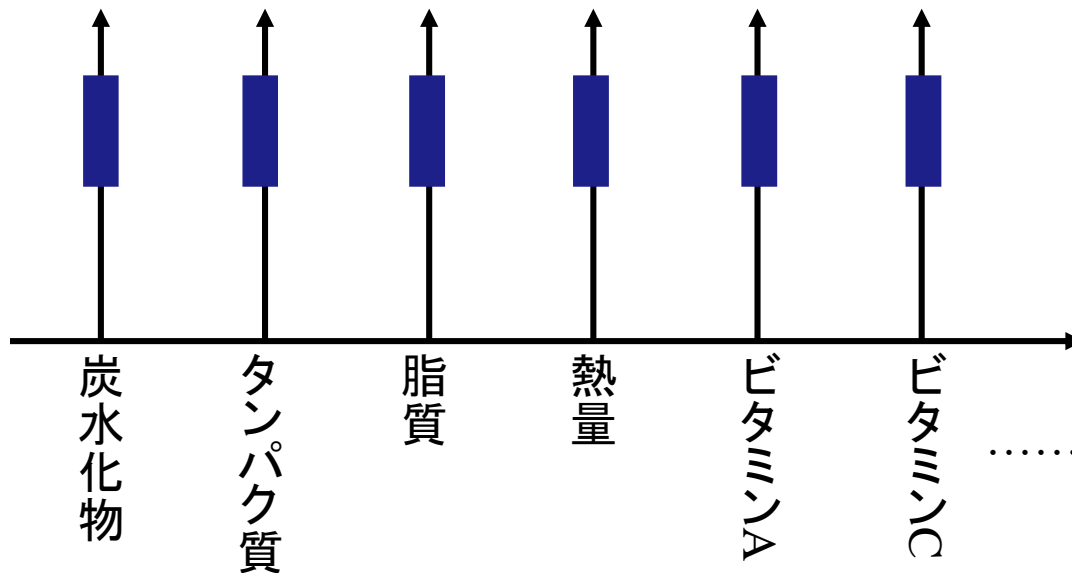


実生活ではどんな場面に出てくるか？

例2 食品と栄養

各食品はそれぞれ栄養素ベクトルを持つ
(炭水化物, タンパク質, 脂質, ビタミンA, ビタミンB1, . . .)
パッと挙げただけでも 10 は優に超えるベクトル成分がある.

ヒトにとって必要な栄養素はある程度決まっているので,
それを規定の範囲内で摂取する線形計画問題である.
多くても少なくてもだめ.



また, 熱量は
炭水化物, タンパク質, 脂質
により決まる一次従属成分

ベクトル表現できる.
ただし各軸の単位はバラバラ



線形方程式の解

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 1 & 3 & -1 \\ 2 & -1 & -3 \end{bmatrix}, \mathbf{b} = \begin{bmatrix} 0 \\ 3 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}$$

$A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解を求める▼

```
>> A=[2,2,1;3,-1,3;2,-1,-3]
```

```
A =
```

```
2 2 1
```

```
3 -1 3
```

```
2 -1 -3
```

```
>> b=[0;3;-1]
```

```
b =
```

```
0
```

```
3
```

```
-1
```

```
>> A\b
```

```
ans =
```

```
0.19512
```

```
-0.51220
```

```
0.63415
```

```
>> inv(A)*b
```

```
ans =
```

```
0.19512
```

```
-0.51220
```

```
0.63415
```

左除法

逆行列

左除法と逆行列,
いずれでも解けるが,
サイズが大きくなると
左除法の方が速い.



ベクトルのノルム

`norm(x,p)`

ベクトル x の p -ノルム

$$\|x\|_p = \sqrt[p]{\sum_{i=1}^m x_i^p}$$

```
>> x=[1,3,2];
```

```
>> norm(x)
```

```
ans = 3.7417
```

```
>> norm(x,2)
```

```
ans = 3.7417
```

```
>> norm(x,1)
```

```
ans = 6
```

```
>> norm(x,inf)
```

```
ans = 3
```

p の値を省略した場合は2
(デフォルト値が2)

$$\|x\|_1 = \sum_{i=1}^m |x_i|$$

$$\|x\|_{\inf} = \max(|x_i|)_{i=1,2,\dots,n}$$

$$\|x\|_2 = \sqrt{\sum_{i=1}^m x_i^2}$$

ユークリッドノルム



行列のノルム

$\text{norm}(X, p)$

行列Xのp-ノルム

```
>> x=[1,4,2;2,6,4];
>> norm(X,1)
ans = 10
>> norm(X,inf)
ans = 12
>> norm(x,"fro")
ans = 8.7750
>> norm(X,2)
ans = 8.7601
```

$$\begin{bmatrix} 1 & 4 & 2 \\ 2 & 6 & 4 \\ 3 & 10 & 6 \end{bmatrix}$$

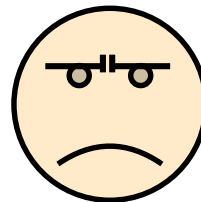
$p = \text{inf}$: 最大行和

$p = 1$: 最大列和

$p = \text{"fro"}$: フロベニウスノルム (Frobenius norm)

$$\|x\|_{\text{fro}} = \sqrt{\sum_{j=1}^n \sum_{i=1}^m x_{ij}^2}$$

$p = 2$ (デフォルト): 最大特異値 (A^*A の最大固有値の平方根)



特異値?

10回目の授業で活躍します。



課題3

2次元のXY平面上の点 $(2, 3)$ について

ベクトル $\mathbf{v}_1 = (1, 1)$, と $\mathbf{v}_2 = (1, -1)$ の線形結合で表したい.

各ベクトルの係数を求める式を書け.

3次元のXYZ空間の点 $(2, 3, 6)$ について

ベクトル $\mathbf{v}_1 = (-1, 1, 1)$, と $\mathbf{v}_2 = (1, -1, 1)$, $\mathbf{v}_3 = (1, 1, -1)$ の線形結合で表したい.

各ベクトルの係数を求める式を書け.

4次元のWXYZ空間の点 $(2, 3, 6, 5)$ について

ベクトル $\mathbf{v}_1 = (-1, 1, 1, 1)$, と $\mathbf{v}_2 = (1, -1, 1, 1)$, $\mathbf{v}_3 = (1, 1, -1, 1)$, $\mathbf{v}_4 = (1, 1, 1, -1)$ の線形結合で表したい.

各ベクトルの係数を求める式を書け.

※答えに関しては係数ベクトル(例えば a や b 等)が
コマンドウィンドウで表示されればよいです.

$$a = \bigcirc \times$$

$$a = \bigcirc \times \triangle$$

$$a = \bigcirc \times \triangle \square$$

のような感じ

エディタ

ファイル (F) 編集 (E) 表示 (V) デバッグ (D) 実行 (R) ヘルプ (H)

Class_03_02.m

```

1  t = [0:1000]/1000;
2  f = 1;
3  k = [1:100]';
4  x = 4/pi * sin(2*pi*(2*k-1)*f.*t) ./ (2*k-1);
5  x = cumsum(x);
6  for i = 1:100
7      plot(t,x(i,:))
8      drawnow
9      pause(0.1)
10 endfor
    
```

提出はエディタで
作成した.mファイルとし、
ファイル名を
BOTB ○ ○ ○ ○_03_01
とする(すべて半角文字).

提出前に実行可能かを確認すること